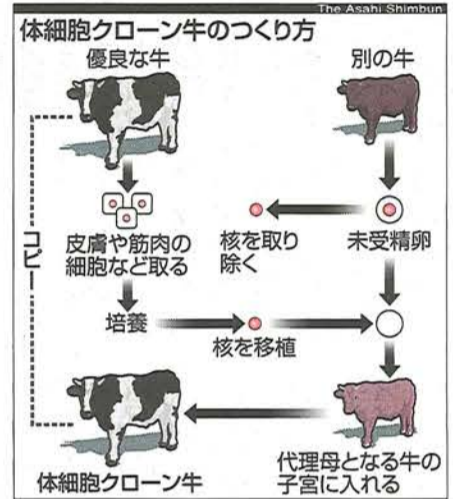


体細胞クローン動物の肉や乳は「食べても安全」とした米食品医薬品局(FDA)の報告に、米国内で反発が広まっている。安全性に懸念を抱く消費者だけでなく、生産農家も「牛乳の売り上げ減につながる」など不安を募らせる。FDAは一般からの意見を公募中で、年内には市場出荷を解禁するかどうかを最終決定する見通し。米国内に先んじて「安全」報告を出しながら、出荷に二の足を踏む日本も、その動向を注視している。



体細胞クローン 核を取り除いた未受精卵に、コピー元となる動物の皮膚や筋肉などの体細胞の核を移植して、代理母の子宮に移して、出産させる。哺乳類では96年に英国で、クローン羊「ドリー」が初めて誕生した。世界初のクローン牛は、近畿大と石川県畜産総合センターが98年につくった。

コピー元の遺伝情報をそっくり受け継ぐため、高品質の家畜の増産などにつながるが、死産や誕生直後の死亡などの発生率が高く、その肉や乳などが市場に出回った例は世界的にもないとされる。

クローン技術には「体細胞クローン」のほか、分割した受精卵の核を使う「受精卵クローン」もある。昨年9月末現在、国内43研究機関が受精卵クローン牛707頭を生産している。一卵性の双子と同じ原理で作られており、「安全性に問題がない」として306頭が食肉として出荷された。ただコスト高などから、一般農家には広がっていない。

法案を出したミカルスキ議員は「(クローン動物食品を) 最初から追跡し続けなければ、すべての食品を汚染してしまうことになるかねない」と危機感を募らせる。FDAのステイブ・サンドロフ獣医学センター長は「すべての意見を検討したうえで、結果を公表する」とし、年内には結論が出る見通しだ。だが、「安全」という科学的な評価が覆る可能性は低いとみられている。

解禁の論議 日本は中断

者の不安が強いとして、同省は99年から自粛を呼びかけており、肉や乳は市場には出ていない。日本でも安全性について検討してきた。厚生労働省の研究班は03年に「食品としての安全性が損なわれるとは考えにくい」との報告書をいち早くまとめたが、「新しい技術であるため慎重な配慮が必要」とも明記。牛海綿状脳症(BSE)・米国内産牛肉問題で日本国内が揺れた時期と重なり、解禁に向けた議論はそこで止まったままだ。

体細胞クローン食べても安全か

米世論は敬遠

乳業界も反発

に立っている背景には、第2次大戦後、米国内の牛乳消費が一貫して減り続けている現実がある。米農務省によると、国民1人あたりの年間牛乳(全乳)消費は1945年の約156リットルが04年に

は約27リットル、5分の1以下に激減。しかも、80年代末まで消費を伸ばしていた低脂肪乳まで、90年代に入り減少に転じた。米国内では93年にバイオ技術で合成した牛成長ホルモンが認可され、乳量

を増やす目的で、乳牛に使用された。非政府組織・食品安全センターのジェイ・ハンソン政策分析担当は「バイオ技術が結局、消費者に嫌われ、低脂肪乳の消費減にまで拍車をか

けた、という思いが乳業界にはある」と言う。連邦上・下院では今年に入り、クローン動物を使った食品に表示を義務づける「クローン食品表示法案」がそれぞれ提出され、審議中だ。上院に

食品安全センターのハンソン氏は「クローン動物が、その子孫まで健康で、食べても安全だ」というのは、より大規模で長期的な調査研究が欠かせない」と指摘した。(ワシントン＝上田俊英)

日本の現状はどうか。世界初の体細胞クローン牛は98年に石川県で誕生した。昨年9月末現在、民間も含め42研究機関で511頭が生まれており、技術力は世界でも指折りだ。農林水産省も「畜産の国際競争力を高める有効な手段」と位置づける。

だが、米国内同様、消費

FDAは2日、昨年12月28日に出した「安全」報告への一般意見公募期間を1カ月延長し、5月3日までにするを発表した。当初の90日の公募期間では「有意義で奥深い議論を進めるのに不十分」という懸念が寄せられた。FDAは報告で、体細胞技術でつくった牛、豚、ヤギの肉と乳は「すべて安全」で、食品として利用する際も特別な

表示は必要ないとした。しかし、世間がこれに納得したとは言い難い。米乳業最大のメーカー・フーズは2月22日、「クローン牛の乳は受け入れない」と発表。「米国民がクローン牛の乳製品を買いたがっていないことは、多くの調査で明らかだ」と説明した。

実際、民間調査機関ピユー・イニシアチブの昨年9月の世論調査では、クローン動物食品は「危険」(43%)という回答が、「安全」(22%)のほぼ2倍に達した。乳業界が反対の先頭

額に白い星がある。乳脂肪分5.2%の濃厚な牛乳を生産し、全米チャンピオンだった伝説のメス牛「ジータ」と同じだ。その6歳の体細胞クローン牛「ジェネシス」を飼う酪農家グレッグ・ワイルズさん(40)は、メリランド州の農場で「こんなはずではなかった」と悔いる。

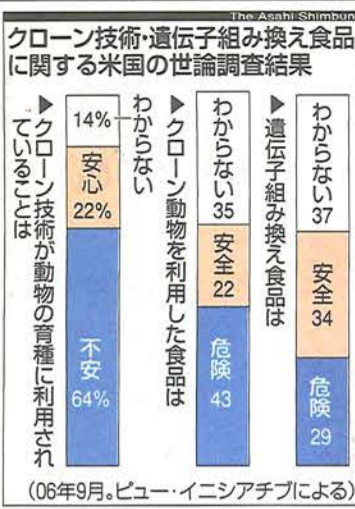
01年にジータのクローン2頭を手に入れた。その1頭がジェネシスだ。クローン会社からは「すぐにクローン牛からの牛乳、肉の販売が許可される」と聞かされた。

だが02年に、もう1頭のシアグラの成長が止まった。成長が止まるとの裏腹に、老化が急速に訪れたように見えた。

ワイルズさんは、シアグラに起きたことを説明してほしいと、クローン会社やFDAに掛け合ったが、反応はなかったという。シアグラは倒れ、今年1月に死んだ。地元大学に依頼し、死因を調べている。

「シアグラに起きたことが説明されなければ、FDAがクローン製品の流通を正式に認めても、自信を持って市場に送り出せない。なぜだれも調査しようとしていないのか」。チャンピオン牛再生の夢をクローン技術に託したワイルズさんのバイオニア精神は、報いられていない。

(桜井林太郎)



「クローン牛の乳は受け入れない」と発表。「米国民がクローン牛の乳製品を買いたがっていないことは、多くの調査で明らかだ」と説明した。

実際、民間調査機関ピユー・イニシアチブの昨年9月の世論調査では、クローン動物食品は「危険」(43%)という回答が、「安全」(22%)のほぼ2倍に達した。乳業界が反対の先頭

額に白い星がある。乳脂肪分5.2%の濃厚な牛乳を生産し、全米チャンピオンだった伝説のメス牛「ジータ」と同じだ。その6歳の体細胞クローン牛「ジェネシス」を飼う酪農家グレッグ・ワイルズさん(40)は、メリランド州の農場で「こんなはずではなかった」と悔いる。

01年にジータのクローン2頭を手に入れた。その1頭がジェネシスだ。クローン会社からは「すぐにクローン牛からの牛乳、肉の販売が許可される」と聞かされた。

だが02年に、もう1頭のシアグラの成長が止まった。成長が止まるとの裏腹に、老化が急速に訪れたように見えた。

ワイルズさんは、シアグラに起きたことを説明してほしいと、クローン会社やFDAに掛け合ったが、反応はなかったという。シアグラは倒れ、今年1月に死んだ。地元大学に依頼し、死因を調べている。

「シアグラに起きたことが説明されなければ、FDAがクローン製品の流通を正式に認めても、自信を持って市場に送り出せない。なぜだれも調査しようとしていないのか」。チャンピオン牛再生の夢をクローン技術に託したワイルズさんのバイオニア精神は、報いられていない。

(桜井林太郎)



グレッグ・ワイルズさんと体細胞クローン牛「ジェネシス」。米メリランド州で、江木亨す

悔いる米の酪農家

だが02年に、もう1頭のシアグラの成長が止まった。成長が止まるとの裏腹に、老化が急速に訪れたように見えた。

ワイルズさんは、シアグラに起きたことを説明してほしいと、クローン会社やFDAに掛け合ったが、反応はなかったという。シアグラは倒れ、今年1月に死んだ。地元大学に依頼し、死因を調べている。

「シアグラに起きたことが説明されなければ、FDAがクローン製品の流通を正式に認めても、自信を持って市場に送り出せない。なぜだれも調査しようとしていないのか」。チャンピオン牛再生の夢をクローン技術に託したワイルズさんのバイオニア精神は、報いられていない。

(桜井林太郎)

「伝説の牛」成長が止まり、死んだ

額に白い星がある。乳脂肪分5.2%の濃厚な牛乳を生産し、全米チャンピオンだった伝説のメス牛「ジータ」と同じだ。その6歳の体細胞クローン牛「ジェネシス」を飼う酪農家グレッグ・ワイルズさん(40)は、メリランド州の農場で「こんなはずではなかった」と悔いる。

01年にジータのクローン2頭を手に入れた。その1頭がジェネシスだ。クローン会社からは「すぐにクローン牛からの牛乳、肉の販売が許可される」と聞かされた。

だが02年に、もう1頭のシアグラの成長が止まった。成長が止まるとの裏腹に、老化が急速に訪れたように見えた。

ワイルズさんは、シアグラに起きたことを説明してほしいと、クローン会社やFDAに掛け合ったが、反応はなかったという。シアグラは倒れ、今年1月に死んだ。地元大学に依頼し、死因を調べている。

「シアグラに起きたことが説明されなければ、FDAがクローン製品の流通を正式に認めても、自信を持って市場に送り出せない。なぜだれも調査しようとしていないのか」。チャンピオン牛再生の夢をクローン技術に託したワイルズさんのバイオニア精神は、報いられていない。

「シアグラに起きたことが説明されなければ、FDAがクローン製品の流通を正式に認めても、自信を持って市場に送り出せない。なぜだれも調査しようとしていないのか」。チャンピオン牛再生の夢をクローン技術に託したワイルズさんのバイオニア精神は、報いられていない。

(桜井林太郎)